海外癌医療情報リファレンス by JAMT
NEWS LETTER

JAMT
Japan Association of Medical Translation for Cancer
日本癌医療翻訳アソシエイツ
http://jamt-cancer.org/

2015.4-2016.3 Vol.7

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ　〒160-0022　東京都新宿区新宿2-15-22　S2ビル8F　http://jamt-cancer.org　TEL 03-3356-5710　FAX 03-5367-6032

新たな活動に向けて

ーvol.7の紹介ー

1. ごあいさつ ……P1
2. 「海外癌医療情報リファレンス」活動報告 ……P2
3. がんセミナー・勉強会 ……P4
4. 監修から ……P6
5. 翻訳者から ……P8
6. 副理事長から ……P10
7. スタッフから ……P11
8. 事務局からのお知らせ ……P12
9. 組織概要 ……P12
10. 協賛企業 ……P12

1. ごあいさつ

免疫チェックポイント阻害薬が悪性黒色腫や非小細胞肺がんの治療に用いられるようになり、がん診療も新たな段階を迎えています。同時に高額な薬剤費や予防への対策など、がん診療に関する社会的課題が今後ますます増えてきます。JAMTはがん医療に関する信頼性の高い海外の情報を、正確で質の高い日本語に翻訳し広く公開することをとおして、社会貢献してまいります。本年もご支援賜りますようお願いいたします。

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ　理事長　久保田馨

患者向けの冊子「がんの臨床試験（治験）ハンドブック」発行

全国のがん拠点病院、患者会に送付

本冊子は、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社社会貢献委員会の助成金によりJAMTが作成したものです。原著は米国国立がん研究所（NCI）の医療者向けワークブックですが、NCIの許諾を受け医薬系専門家の協力のもと、日本の患者・家族向けに新たに作成し、日本の医療状況に沿った内容に編集、監修されています。

（送付先：がん拠点病院約450件　患者会約40件）

2.『海外癌医療情報リファレンス』活動報告

★『海外癌医療情報リファレンス』ボランティアサイトでのがんの情報提供（約200記事翻訳提供）

今年も、スタッフ、監修者、翻訳者の皆様のご尽力により、多数の翻訳情報を提供することができました。

《主な翻訳元》

- 米国国立癌研究所（NCI)-NCIニュース、ブログ、ファクトシート、薬剤情報（A-Z）
- FDAニュース　-新薬承認と安全性報告
- AHRQ(医療研究・品質調査機構)
- 学会ニュース　- 米国臨床腫瘍学会（ASCO)、欧州臨床腫瘍学会（ESMO)、米国癌学会（AACR）プレスリリース
- 大学/ 施設ニュースMD アンダーソンがんセンター、ダナファーバーがん研究所、ジョンズホプキンス
- MD アンダーソンがんセンター専門家向けオンライン月刊誌「Oncolog」
- 英国医療サービス（NHS）
- キャンサーコンサルタンツニュース、など。

★助成金活動

・「～患者のための～がんの臨床試験（治験）ハンドブック」冊子の完成、全国への配布(2014年度ジョンソン・エンド・ジョンソン(株）社会貢献委員会助成金(50万円)）完了。

・NCIガイドブックなどの電子書籍化(2015年度ジョンソン・エンド・ジョンソン(株）社会貢献委員会助成金(50万円)）が現在進行中。

2015年 5月	6日	FMやまと　がん対策中小企業アクション（野中副理事長）出演
	8日	世界卵巣がんデーウェブサイト（卵巣がん体験者の会スマイリー）翻訳
		【教育事業】「医療翻訳入門講座A全9回」（夜）開講
7月	11日	**第1回がんセミナー「乳がん・疾患と治療戦略」（外科）** 講師：小坂泰二郎先生（順天堂大学附属順天堂練馬病院 乳腺外科） <前講座>医療翻訳ワークショップ 「Medical Terminology～ゼロからの医学用語・乳がん編」 【教育事業】「医療翻訳入門講座・夏期集中講座A」開講
9月	12日	**第2回がんセミナー「乳がんの最新薬物治療-現在開発中の治療を中心に」（内科）** 講師：下村昭彦先生（国立がん研究センター中央病院　乳腺・腫瘍内科） <前講座>医療翻訳ワークショップ「実例で見るメディカル翻訳のポイント」
10月	17日	**字幕翻訳勉強会** 講師:瀧ノ島ルナ先生（フェロー･アカデミー講師、上智大学非常勤講師）
	21日	**コクラン日本支部にて第1回翻訳会議**
	29～31日	**第53回日本癌治療学会学術集会・患者プログラム（PAL)参加**
	29日	毎日新聞記事に「海外癌医療情報リファレンス」サイトが紹介
11月	26～28日	**第56回日本肺癌学会学術集会・患者プログラムに参加**
12月	10日	**『～患者のための～がんの臨床試験ハンドブック』** （ジョンソン・エンド・ジョンソン（株）社会貢献委員会助成金活動）冊子完成、全国がん診療連携拠点病院および患者会へ発送。
	12日	グローバソン・ジャパン ウェブサイト英訳（卵巣がん体験者の会スマイリー）
2016年 1月	16日	**第３回がんセミナー「日米の医師主導臨床試験の違い」「エビデンスに基づく医療」** 講師：今村知世先生（慶応義塾大学医学部臨床薬剤学） <前講座>癌治療学会参加報告と医療翻訳ワークショップ 【教育事業】「医療翻訳入門講座A全9回」（夜）開講
2月	13日	**第４回がんセミナー「臨床薬理（薬物動態、薬物間相互作用、PK/PDなど)」** 講師：今村知世先生（慶応義塾大学医学部臨床薬剤学） <前講座>医療翻訳ワークショップ　「「海外癌医療情報リファレンス」翻訳・用語のポイント」
3月	18日	**第２回コクラン翻訳会議**
	20日	**理事会／総会**

★収益事業部門

《取引先》･各種企業、･学術機関、患者会など

《JAMT翻訳の主な掲載、提供先》(順不同)

- ヘルスデーニュースの短報提供
- Navigeneニュース(海外)提供(～9月)
- がん情報サイト「オンコロ」ニュースに元記事として提供
- 厚労省『「統合医療」に係る情報発信等推進事業』(帝京大学 大野智先生主導)翻訳
- フェローアカデミー、アメリアの定例トライアル審査･講評提供(年2回･盛井有美子先生)
- 月刊「がんサポート」(エビデンス社)最新がんトピックス海外版
- キャンサーネットジャパン季刊誌「海外がん医療TOPICS」掲載
- 卵巣がん患者会スマイリーのイベントHP英訳、
- がんプロ逐次通訳
- (株)リンクスタッフ「Doctor's Gate」(http://drsgate.com/)に記事リンク提供

学会参加

両学会とも、学術集会に早朝から夜まで連日参加しました。学術セッションで多くのことを学ぶとともにがん患者さんやご家族などとも交流でき、大変貴重な経験となりました。来年も参加したいと意気込んでいます

第53回日本癌治療学会学術集会

10月29～31日

（国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都）

東京から3名、関西から3名（以上）参加

患者プログラム（PAL)に奨学金を得て参加しました。

ポスター発表（野中副理事長）

「興味深かったポスター発表」第２位

・海外文献の訳はありがたいです。
・海外情報をわかりやすく伝えてくださるのがありがたいです。
・先ずは海外のがん情報を提供するボランティア団体の存在を知る事ができたこと。海外のがん情報の信頼度の高さ。そしてそれを手にする（入手する）ことが可能であることを知り得たのは良かった。
・医療専門用語等も多く難しいであろうによく出来ている。(海外情報)ものと感心した。
・海外情報の正確な把握のための良い手段。
・取り組みが工夫されていて参考になりました。

というご意見をいただきました。

第56回日本肺癌学会学術集会

11月26～28日（パシィフィコ横浜）

患者・家族向けプログラム「そうだ！　がん診療の専門医と会ってみよう」にJAMT会員より5名(以上)参加

メディカルスタッフシンポジウム5
司会：勝俣範之先生（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科）
野中副理事長口頭発表「海外医療情報の活用法～海外癌医療情報リファレンスを通して～」

コクランレビュー翻訳プロジェクト

コクラン日本支部主導のコクランレビュー翻訳プロジェクトにJAMTも参加して準備を進めています。遅れておりましたが、今年、間もなく翻訳開始予定です。翻訳文は、コクランのサイトにアップされます。

<コクラン・ライブラリー>

20年来取り組まれているコクラン共同計画の世界的プロジェクト。EBMに基づく合理的な意思決定を供するために英国で始まった。ランダム化比較試験（RCT）を中心とした臨床試験をくまなく収集、評価する目的で有志でシステマティック・レビューを行う。最もレベルの高いエビデンスとされる。わが国でも2014年、日本支部が結成された。

【新理事紹介】
慶應義塾大学医学部　臨床薬剤学教室
講師　今村知世先生

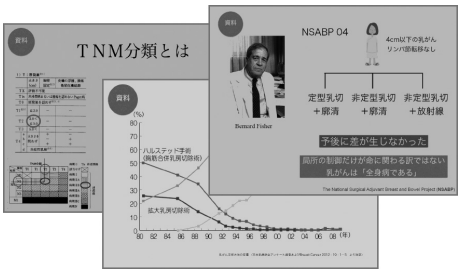
この度、理事を拝命いたしました慶應義塾大学医学部の今村知世です。私は医学部に所属しておりますが薬学出身の薬剤師であり、現在は抗がん薬の個別化投与を目指した研究を行っております。MD Anderson Cancer Centerの上野直人先生よりJAMTをご紹介いただき、「米国National Cancer Institute（NCI）とのコラボレーションによる医師主導治験」や「タモキシフェンのCYP2D6遺伝子型に基づく個別化投薬と固定用量の比較研究（TARGET-1 study)」を日米両国にて展開すべく、JAMTには実施計画書や説明文書の翻訳をお願いさせていただいておりました。また東日本大震災直後におけるAmerican Cancer Societyの「Coping With Cancer After a Natural Disaster: Frequently Asked Questions for People With Cancer and Their Caregivers」の翻訳やマイ・オンコロジー・ドリームプロジェクトとして行われた米国NCIの動画「Cancer Clinical Trials」の日本語吹替え版作製といったJAMTの取組みおきましては、監修を務めさせていただき大変貴重な経験をさせていただいておりました。このように何かとご縁のあったJAMTの理事に就任し、皆さまの活動に触れ理解を深めるにつれ、会員の方々の熱心な姿勢と志の高さに感銘を受けております。微力ながら皆さまの活動に何かお役に立てればと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

海外癌医療情報リファレンス、アクセス数の多かった2015年発行の記事ランキング　2015年1月～12月

1	**非浸潤性乳管がん（DCIS）診断後の乳がんによる死亡リスクは低い／NCIブログ～がんの動向**
2	**FDAが進行肺がんの治療にニボルマブの適応拡大を承認／FDAニュース**
3	**トリプルネガティブ乳癌に対するPD-1免疫チェックポイント阻害剤ペンブロリズマブの初期結果**
4	がんの補完代替療法について知っておくべき6つのこと／国立補完統合衛生センター（NCCIH）
5	アザシチジンとレナリドミド併用療法は骨髄異形成症候群（MDS）ハイリスク群／急性骨髄性白血病（AML）に有効／MDアンダーソンがんセンター
6	カルボプラチンを加えた化学療法でトリプルネガティブ乳がん患者の転帰が改善／ダナファーバーがん研究所
7	トリプルネガティブ乳がん女性に対する免疫療法治験薬MPDL3280Aが予備的研究で評価／ジョンズホプキンス大学
8	FDAが閉経後進行乳がん患者に対するパルボシクリブを承認/FDAニュース
9	免疫チェックポイントPD-L1阻害剤の効果を予測するバイオマーカー候補／ダナファーバーがん研究所
10	進行期軟部肉腫患者の治療薬としてのトラベクテジン
11	FDAが進行卵巣がんの治療にオラパリブを承認/FDAニュース
12	ニボルマブはBRAF変異のない転移性メラノーマ患者の全生存期間を改善／NCI臨床試験結果
13	BRCA1、BRCA2遺伝子：がんリスクと遺伝子検査／NCIファクトシート
14	免疫療法：免疫系を利用してがんを治療する／NCIファクトシート
15	個別化医療（Precision Medicine）に関して知っておくべき5つのこと／ダナファーバーがん研究所
16	FDAが進行性非小細胞肺がんの治療にペンブロリズマブを承認／FDAニュース
17	FDAが多発性骨髄腫の治療にパノビノスタットを承認/FDAニュース
18	再発多発性骨髄腫患者に対し、カルフィルゾミブがボルテゾミブよりも優越性を示す
19	OncoLog 2015年7月号◆高リスク、転移性乳がんを対象とした免疫療法の臨床試験に期待が高まる／MDアンダーソンがんセンター
20	生検によりがんは拡散しないとの研究結果／メイヨークリニック
21	ルミナールAタイプの乳がんでは術後化学療法の効果は認められず（サンアントニオ乳がんシンポジウム2015）／米国がん学会（AACR）
22	FDAが進行肺扁平上皮がんの治療にニボルマブの適応拡大を承認/FDAニュース
23	終末期医療の希望を伝えているがん患者は非常に少ない／NCIブログ～がんの動向
24	エロツズマブの併用により、再発性多発性骨髄腫における進行リスクが大きく低減（ASCO2015）／米国臨床腫瘍学会（ASCO）
25	フルベストラントはアナストロゾールよりも進行性乳がん患者の生存期間を延長／米国がん学会（AACR）
26	ホルモン治療歴のない進行性前立腺がんに対する初回治療に、化学療法剤ドセタキセルの追加で生存が延長（ASCO2015）／米国臨床腫瘍学会（ASCO）
27	EGFR抵抗性肺がんに有望な新たな分子標的薬AZD9291／ダナファーバーがん研究所
28	早期肺がんに対する体幹部定位放射線治療（SABR）は、外科手術と比較して全生存率が良好／MDアンダーソンがんセンター
29	コーヒーが、乳がん治療薬タモキシフェンの効果を高める可能性／英国医療サービス（NHS）
30	がんとは何でしょうか？／NCIファクトシート

3.がんセミナー・勉強会

7月11日(土):「乳がん、疾患と治療戦略」 小坂 泰二郎 先生 (順天堂大学医学部付属順天堂練馬病院乳腺外科)

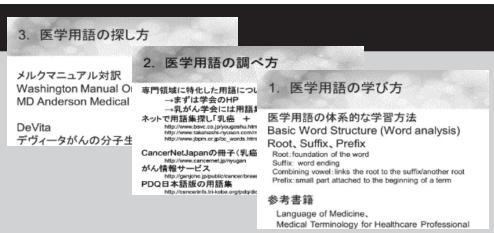


乳房の構造、センチネルリンパ節生検など近年の乳がん診療の動向など、乳腺外科の立場からお話しいただきました。かつての侵襲的な切除手術から現在の温存術に至るまでの経緯、昨今の乳房再建術や遺伝性がん、過剰診断のお話まで幅広く教えていただきました。

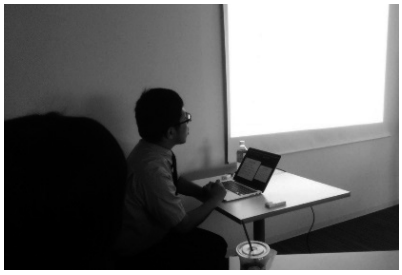
★医療翻訳ワークショップ

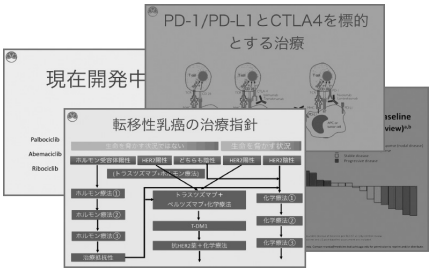
「Medical Terminology ～ ゼロからの医学用語・乳がん編」
石崎智子さん （JAMT会員、医療翻訳講座講師）

英和で書籍が存在する（英語の原書＋日本語の訳書がある）ものから自分で対訳データベースをつくり、用語を調べ活用する方法について教授。がんについての動画紹介もあり、楽しく医療翻訳の用語整理ができます。



9月12日(土):「乳がんの最新薬物治療 ―現在開発中の治療を中心に」 下村 昭彦 先生 (国立がん研究センター中央病院 乳腺、腫瘍内科)



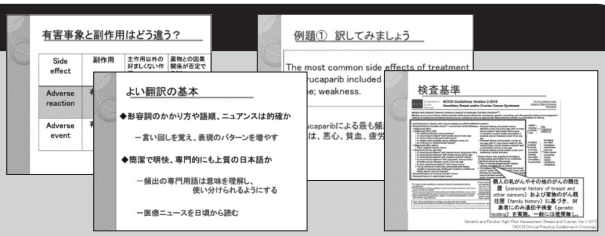


ホルモン療法含め、たくさんの治療薬の選択肢がある乳がんにおいて、腫瘍内科の観点からお話しいただきました。術前・術後化学療法、転移性乳がん治療の概略や、今後期待される新薬 PARP 阻害剤、CDK4/6 阻害剤、免疫チェックポイント阻害剤など解説。

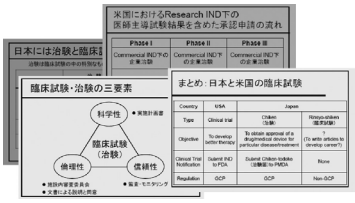
★医療翻訳ワークショップ

「実例で見るメディカル翻訳のポイント」
今泉眞希子さん （JAMT会員、医療翻訳講座講師）

質の高い医療翻訳のためのポイントを知識面技術面からとらえ、実際の翻訳例をもとに講義が行われました。こなれた日本語にするためのヒントがとても好評でした。後半には、「BRCA1/2 遺伝子変異」など遺伝性がんについて豆知識を伝授。



1月16日(土)3回目:「日米の医師主導臨床試験の違い」「エビデンスに基づく医療」 今村 知世先生 (慶応義塾大学医学部 臨床薬剤学)

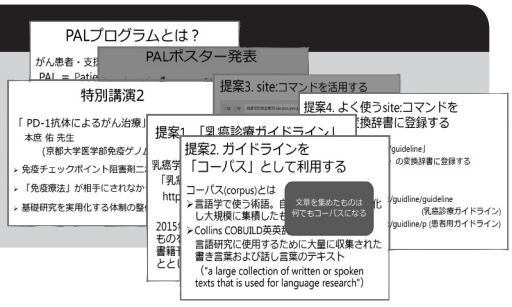


臨床試験・治験の定義と要素、日本と米国の環境の違いなどをご自身の米国 NCI への留学経験を交えてわかりやすく説明していただきました。科学性、倫理性、信頼性を重視した臨床試験の重要性を再確認できた内容でした。EBM やエビデンスの質の種類も学べました。

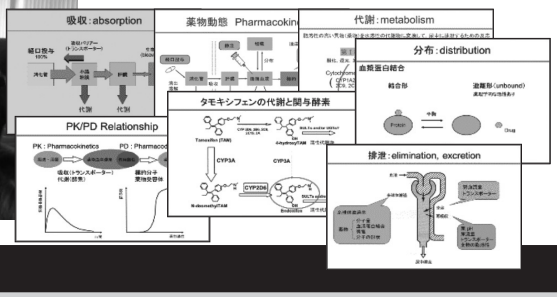
★医療翻訳ワークショップ

「日本癌治療学会参加報告」と「乳癌ガイドライン治療の翻訳表現」
佐復純子さん （JAMT会員）

学会 PAL プログラムの紹介、JAMT の活動との関連についてなど初めて日本癌治療学会に PAL 参加した感想や内容の報告。医療翻訳表現を高めるために乳がんガイドラインを活用する方法についてご教示いただきました。



2月13日（土）4回目：「臨床薬理（薬物動態、薬物間相互作用、PK/PDなど）」 今村 知世先生（慶応義塾大学医学部 臨床薬剤学）

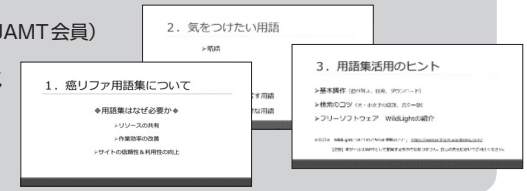


臨床薬理入門ということで初歩からご講義いただきました。ADME（吸収、分布、代謝、排せつ）からなる薬物動態について参考になる内容でした。また、薬物の相互作用についても興味深いお話でした。

★医療翻訳ワークショップ

『海外癌医療情報リファレンス』翻訳用語のポイント　下川智美さん（JAMT会員）

JAMT 用語集 Excel 版、スタイルガイド新版が完成し、担当の下川さんからその活用法やさらに気をつけるポイントについて説明いただきました。用語集は、全体で共有すべき内容、誤りが多いものなどを中心に、最小限の用語を掲載。一般用語、FDA 用語、薬剤名、固有名詞、略語で構成され、今後も随時修正します。フリーソフト WildLight も紹介。



ミニ講義が各回行われました

1回目：今村知世先生　タモキシフェンの代謝酵素の活性に基づく個別化医療を目指す「TARGET-1 study」についてのお話をいただきました。

3回目：久保田馨先生　「免疫チェックポイント阻害剤について」その他、がんを取り巻くさまざまなお話でした。

4回目：後藤　悌先生　「がんと医療情報について」溢れる医療情報の現状、そして高額な薬価の問題に鋭い提言と真剣なディスカッションが行われました。

〈久保田先生〉

〈後藤先生〉

《ディスカッション》
右から、今村先生、辻村先生、後藤先生

字幕翻訳勉強会 10月17日（土）10:00～12:00

瀧ノ島ルナ先生（映像翻訳家） 課題動画「肥満とがんのリスク」

- **「JAMT字幕ルール」**
- **「YouTube動画に字幕をつけよう」**

〈前列左　瀧ノ島先生〉

字幕翻訳セミナーに参加して

重森 玲子

10月に滝ノ島ルナ先生の字幕翻訳セミナーが開催され、初めて参加致しました。同じ「翻訳」という分野から、字幕翻訳には以前から興味を持っていました。字幕翻訳の場合、字数制限があるということは知っていたため、普段JAMTで行っている記事の翻訳とはまた違った難しさがあるのだろう、と漠然と考えていました。

セミナー開催にあたり、事前課題が出されました。課題と同時に字幕翻訳に関する資料も頂きました。その資料を参考に課題に取り組みましたが、どうしても日頃行っているような記事の訳文の型にしかならず、字幕翻訳とは程遠いものとなってしまいました。

セミナー当日、事前に頂いた資料をもとに、先生が字幕翻訳について１から教えてくださいました。先生のご説明は非常に分かりやすく、ますます字幕翻訳への興味がわきましたが、「難しい」という気持ちは拭えませんでした。しかし、セミナーの最後に先生の流れるような字幕を拝見して、ぜひ自分もああいう字幕翻訳をしたい、と強く思いました。

今後、私がJAMTで行う活動に、字幕翻訳が加わることになります。普段、記事を翻訳する際も十分悪戦苦闘しているのに、さらに「字数制限」などの字幕翻訳独特のルールが加わり、一体どうなることやら・・と、不安はありますが、それよりも新たなことに挑戦する時に湧く楽しい気持ちのほうが勝っています。2016年は、従来から行っている記事の翻訳、そして新たに加わるこの活動を通して、英語・日本語の語学力を向上させ、医療知識を深めたいと考えています。そして、日頃から感じていることですが、自分の訳文が世の中の１人にでも役立ってくれれば嬉しい限りです。

4. 監修から

消化器外科医として

国立病院機構京都医療センター　外科　畑　啓昭

私が医師となり初期研修を受け始めたのが2000年で、ちょうどEBMが日本に広がりだす初期の頃でした。総合内科の研修などで“エビデンスに基づいた医療”を習ってから外科に行ったのですが、外科ではまだまだ“EBMって何？”、“EBMは嫌いだ”、“僕の経験では・・・”という言葉が聞かれたように記憶しています。それから15年が経過し、今では専門医はガイドライン・エビデンスを十分に理解し、新しいことにもキャッチアップして、その上で一人ひとりの患者さんの治療を考えていくというのが当たり前となっていますし、患者さんも『海外癌医療情報リファレンス』など、しっかりとした所から情報を得て、自分の病気のことを知って考えていけるようになり、本当に良い方向に変って来たんだなぁと感じています。

私は現在、癌拠点病院で上部消化管の癌に対する手術治療をメインに担当しています。そして、開腹での手術や腹腔鏡手術は勿論ですが、ロボット手術などにも積極的に関わっており、消化管癌の外科治療では先端の治療を提供していきたいと日々考えています。このような日常の中で、少しずつではありますがJAMTでの監修の機会を頂くことで、自分の専門から少し離れた広い視野で新しい情報に接することができ、自分自身の勉強の機会としてだけではなく、自分の立ち位置を再確認するための良い機会として、利用させてもらっているように思っています。

引き続き、微力ではありますが、上質なエビデンス情報・がん情報を患者さんに届けられるお手伝いができればと思っておりますので、宜しくお願い致します。

山陰の田舎より

とみます外科プライマリーケアクリニック　廣田 裕

日本国、中国地方、山陰の鳥取県米子市から皆さんの活動に参加させて頂いております。そうそうたる肩書きの監修者の中で、異色の存在と思います。

私は昭和58年鳥取大学医学部を卒業、呼吸器外科医をめざして出発しました。当時はほぼ標準開胸のみ。争うように早く胸腔に到達し、肋骨は1本取り、肋間神経も抜去したりしていました。現在の胸腔鏡手術やロボット手術は隔世の感があります。

築地のがんセンターに研修に行った時、ちょうど忘年会のシーズンでしたが、当時日本の呼吸器外科をリードしていた成毛先生が、アルコールなし(飲めない)でおニャン子クラブを狂ったように踊られるのに驚かされました。やはり、一流の人は何をやってもすごいものだと感心しました。

さて、2000年開業しました。ちょうど介護保険が開始となった時期です。外来と通所リハビリテーション(デイケア)という構成です。最近、国は入院期間の短縮と、リハビリテーションを含めた医療行為の実効性(本当に患者をよくすること)を要求しています。そのため、今後我々のような在宅でリハビリテーションを行う組織の重要性が増してくるのではと期待しています。

最近は仕事柄、そして自ら切実な問題である、老化に興味があります。現在は“健康寿命”の延長が盛んに言われていますが“活動寿命”と言うべきだと思っています。何とかこれを維持できるよう、現時点で納得できるものを実践していく場を作るのが2016年の目標です。また今、人間の寿命は約120歳が限界といわれていますが、急速な学問の進歩で、寿命が延びる可能性が現実味を帯びてきました。しかし、あなたの身近な手強い人もずっと生きるのですよ!

他にはやはり、がん、とくにmiRNAあるいはliquid biopsyの実用化に期待しています。最近、40、50代の知人が次々と癌に罹患したり、死亡したりしており、腫瘍関連分野の進歩を本当に望んでいます。

最後に、監修作業のことですが、田舎にいながら、全く顔も見たことのない人たちの中で、ごくふつうに仕事ができるのは、おもしろいことだと思っています。昔から英語を何か活かせないかと思っていたところ、その頃監修者が少なかったためか、受け入れて頂きました。結構最新の話題が取り上げられ、勉強になります。勉強会にもいつか参加したいと思っているのですが…

今後ともよろしくお願いいたします。

ビッグデータ処理技術による癌診断、癌治療のイノベーション

東京農工大学 農学系ゲノム科学人材育成プログラム 特任教授　石井一夫

最近、twitterやフェイスブックなどインターネットからのソーシャルサイトのログを集めて世の中の消費動向を予測したり、センサーなど様々な計測機器をインターネットに接続して情報収集を行ったり（IoT; しばしば物のインターネットと呼ばれます。）するビッグデータが話題になっています。医療においても、電子カルテや、ゲノム解析の医療への展開など、大量の患者さんから大量のデータを得て診療に役立てる医療ビッグデータが謳われるようになり、個別化医療の実現が現実味を帯びてきました。

癌の発生は、単一の遺伝子や環境要因だけで起こるものではなく、いろいろな環境要因（発がん物質、放射線、タバコの灰など）が身体に作用し、いろいろな遺伝子やタンパク質の異常が蓄積することによって起こります。また、制がん剤や放射線療法などその治療効果も一人一人異なります。これらの一人ひとりの環境や体質に合わせた診療がオーダーメード医療（個別化医療）です。

これらの、個別化医療の実現のためには、その判断基盤になる患者検体や、その電子カルテ、検査情報などを大量に集めてデータベース化し、診療に役立てることができるような情報システムを作る必要があります。

これがバイオバンクで、日本では、東北メディカル・メガバンク事業が有名です。この事業は、「東日本大震災の被害からの地域医療の復興と、大規模情報化に対応した新たな医療の構築を目指します。被災地に医療関係人材を派遣して地域医療の復興に貢献するとともに、15万人規模の地域住民コホートと三世代コホートを形成し、そこで得られる生体試料、健康情報、診療情報等を収集してバイオバンクを構築します。」とウェブページに紹介されています。最近では、国立がん研究センターや国立循環持病研究センターなど６つのナショナル医療センターが実施しているナショナルセンターバイオバンクネットワークが整備されています。これらのバイオバンクによるビッグデータ環境の整備により、個別化医療という医療イノベーションが進むことが期待されます。

参考サイト
東北メディカル・メガバンク機構
http://www.megabank.tohoku.ac.jp/
ナショナルセンター バイオバンク ネットワーク プロジェクト
http://www.ncbiobank.org/

がん治療の発展を社会は支えることはできるのか？

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科　後藤　悌

肝炎の治療薬や免疫チェックポイント阻害薬などの上市で、医療費の問題が取り上げられるようになってきた。肝炎の治療薬は1錠10万円弱、免疫チェックポイント阻害薬は1ヶ月の治療費に300万円を要する。一般的に、患者負担は保険に応じて0～30%であるが、日本には高額療養費制度があり、実際の負担は収入に応じるものの、より低い値段に支払い上限額が設定される。それでも、長期化した治療では患者の負担は大きく、対策が必要なことは間違いない。しかしながら、忘れてはならないのは、患者が直接に負担していない医療費も、最終的には国民が負担すると言うことである。

日本の国民医療費は43兆円と言われ、そのうち患者負担は6兆円程度である。残りの費用は給付費であり、国民全体で負担することになる。実態としてそのコストは日本の公的な予算ではまったく不足しており、残額は、将来世代への「借金」として賄っている。日本の医療制度は、将来に破綻するのではなく、すでに破綻しているというのが真相といえる。

医薬品が高値過ぎるという意見もあるが、開発コストは9年ごとに倍増しており、製薬メーカーの開発への投資は他の産業領域と比べても高い。さらに、医薬品は製造販売の承認のハードルが高く、承認されるまではまったく利益を生まない。医薬品を導出するには多大なコストがかかっており、これが医薬品の値段に反映されているとも言える。もし医薬品のコストを抑える政策をとったならば、日本での新薬の開発が大幅に遅れてしまうことは確実である。

免疫チェックポイント阻害薬はヨーロッパ、隣国である韓国、台湾ですらも保険償還されないのではないかと懸念されている。日本では、患者に有効な治療を届けるために新薬を承認し、保険償還もされている。しかし、現行のシステムは将来世代への借金で成立しているのであり、このような制度が長続きするとは考えられない。すでに日本の負債はGDPの2倍を超えており、この規模の負債を解消できた社会は歴史上ほとんどない。社会保障費は負債の一番の原因である。治療の効果を追求しているうちに、社会の負担を超えるコストが必要となった医療をどのように発展させるか。これは高齢化社会と皆保険を抱える日本が抱える大きな課題であり、将来的には全世界のがん医療の開発にかかわる問題である。

5. 翻訳者から

JAMTに出会って
佐々木真理

JAMTの会員になってからはや数年。一般の方を読み手に想定した翻訳は初めてでした。とまどいながらの挑戦。専門用語を使いすぎないように、でも正確な情報は伝えなければ。校閲者や監修者の方々からいつも丁寧なアドバイスをいただきました。また、タイトルの訳し方を勉強したくて、ジャーナリズムのテキストを購入。これもJAMTとの出会いがきっかけです。他にも論文の要約や医学統計、疫学など、毎回刺激をいただいて、次は何を勉強したらよいのか、自分の課題が見えてくるのが非常に楽しみです。

翻訳を通して、また各種セミナーやワークショップを通じて、異業種の方と交流・情報交換できる機会をいただけるという点でも非常に有り難く思っています。2015年は肺癌学会参加という好機に恵まれました。ここでは主に新WHO基準の変更点について学び、英語による発表をどこまで聞き取れるか、それを英語でメモできるか、を目標にしました。また、学会発表で多用されている言葉と翻訳業界で定訳とされている言葉の違も発見しました。言葉は日々変化します。医療従事者の方から見て違和感のない文章を作成できるよう、発表スライド翻訳などに活かしていくつもりです。

今年の目標は、中断していた動画翻訳への再挑戦です。通常の翻訳とは異なり、情報量や時間を考慮しながら、特有の規則に従って最適な訳語を選択していきます。奥が深く、やりがいのある分野だと思います。スマートフォンやタブレットで手軽に情報検索できるようになった昨今では、需要が高いといえるのではないでしょうか。

現在は英語から日本語への翻訳がほとんどですが、世界的に医療が高度化している今、将来は多言語の情報を和訳する必要性も出てくるかもしれません。また、外国の方に対して日本の医療に関する情報を発信するというニーズも生じるかもしれません。

JAMTの強みは、活動に積極的な会員が多いこと、そしてチャレンジ精神旺盛な方が多いことだと思います。皆さんに負けないよう、私も多方面から「がん」というものに関わっていきたいと思います。

信頼できる情報を多くの患者に
片瀬ケイ（米国・テキサス州在住）

〈右　片瀬さん御夫妻〉

JAMTの翻訳ボランティアに参加させていただくようになったのは、私が卵巣がんの治療を終えて3年目を迎えた頃でした。2008年の春、米国で元気に働いていた43歳の時に、突然、卵巣がんの診断を受けました。大腸がんの家系なので、年一回は健康診断と婦人科検診、定期的に大腸内視鏡検査も受けていました。下腹にしこりを感じた以外は何の不調もなかったので、卵巣がんの診断は晴天の霹靂でした。

プライマリ・ケア医がすぐに婦人科腫瘍医の治療を受けられるよう手配してくれ、手術とIP(腹腔内)/IV化学療法を受けました。開腹手術でも入院期間は4日間と短く、化学療法も最初から主治医の診療所（外来）で行いました。米国医療の仕組みがわからずとまどいましたが、明るく誠実な主治医と医療スタッフに支えられ、スムーズに治療を終えることができました。

卵巣がんの知識はおろか医療英語もわからない言葉が多く、看護婦に医療情報のウェブサイトを教えてもらい、ひたすら調べました。そこではじめて、パップスメアは子宮頸がんの検査で、卵巣がんや子宮体がんは発見できないこと、大腸がん家系によくある遺伝性のリンチ症候群だと婦人科がんリスクも高くなることを知ったのです。

その一方で、迅速に婦人科腫瘍医による手術を受けることの重要性や、IP/IV化学療法は臨床試験でよい結果を示したこと知り、心強く感じました。また世界中で行われている臨床試験や遺伝子検査、サポートグループの存在についても知りました。病気である状態をすぐに変えられなくても、それに対して何ができるのかを知ることで、気持ちが落ち着くことを実感しました。

今年度製作したNCI翻訳ビデオ

知っていますか？：肥満とがんのリスク／米国国立がん研究所（NCI）

リサーチ・アドボカシー101：アドボケートによる がん研究への貢献／米国国立がん研究所（NCI）

知っていますか？：膵臓がん／米国国立がん研究所（NCI）

知識は力です。しかしインターネット上に溢れる医療情報は、玉石混交です。がんについて正しい情報を広めるために何かをしたい。JAMTの活動がまさにそれでした。現在はJAMTの翻訳記事を、がんサポート誌やキャンサー・ネットワーク・ジャパンのニュースレターに紹介するお手伝いもしています。一人でも多くの人に、信頼できる最新のがん情報を伝えられるよう、引き続き取り組んでいきたいと思います。

JAMT がんセミナーに参加して

太田 奈津美

2015年に開催された、2回の乳がんセミナーに参加しました。野中 希副理事長より、東京での開催を長らく切望されていた乳がんセミナーがようやく実現したとのお話を伺い、非常に感慨深く感じました。また、日頃お会いする機会のないスタッフや翻訳者の皆様と直接お話できて、とても楽しい時間を過ごせました。

各セミナーの前には、医療翻訳ワークショップがありました。第1回では石崎智子先生より医学用語の学び方・調べ方・探し方について、第2回では今泉眞希子先生より過去の翻訳事例の中から表現等をより良くするためのポイントについてお話を伺い、いずれも短時間ながら非常に良い勉強になりました。

第1回は「乳がん　疾患と治療戦略　外科治療編」というテーマで小坂泰二郎先生よりお話を伺いました。乳がんの全体像から、手術の歴史や実際の手技について、非常に詳細かつ分かり易くご説明いただき、大変多くの学びを得られました。特に、手術では乳房切除術に始まり、乳房温存手術、乳房再建法、センチネルリンパ節生検についての非常に丁寧なご説明により、乳がんでは腫瘍を取り切ることが重要ではあるものの、不必要な手術はしない方向へ進展していることが分かりました。

第2回は「乳がんの薬物療法」というテーマで下村昭彦先生よりお話を伺いました。乳がん薬物治療の目的から術前・術後療法、予後因子、リスク、腋窩郭清省略の問題や現在開発中の新薬まで、とても盛りだくさんな内容を分かり易く明快にご説明いただきました。薬物治療の複雑さや種類の多さに圧倒されましたが、今後より効果的で副作用の少ない新薬が開発され世に出ることを願いつつ、講義で得られた知識を翻訳に活かしていきたいと思います。

各セミナーの後では今村知世先生から最新の臨床試験についてのお話があり、大変興味深く勉強になりました。今村先生による第3回セミナー（2016年開催）も非常に楽しみにしています。

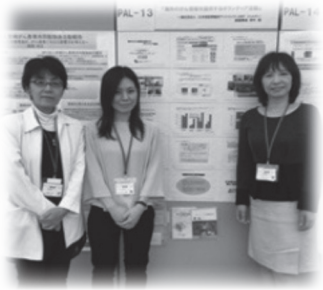
第53回日本癌治療学会学術集会に参加して

日ノ下満里

10月29日から31日にかけて、京都で開催された日本癌治療学会学術集会に参加いたしました。全国からたくさんの先生方が集まり、研究発表をされている姿を拝見して、「自分の見えないところでこんなにたくさんの人が癌医療に取り組んでいるんだ」と感銘を受けました。

拝聴したセッションはどれも大変興味深く、最新の癌医療について知ることができました。「臨床試験のトレンドは抗がん剤だ」というお話もあり、今まさに、癌医療がより精度の高いものに発展する過程にあるのだと感じ、それに伴うJAMTの活動の意義を強く感じました。

患者団体のポスター発表では、JAMTのブースに立ち寄られた方の一人が「（医療情報を）ネットで検索して読みたいと思っても、英語でわからない」とおっしゃっていました。普段作業をしているときには、こういった「実際に情報を必要としている人」の存在を直に感じることはほとんどありませんが、JAMTの活動がこんなにも必要とされているのだ、と実感しました。今後JAMTの活動がより必要とされるよう、そして必要としている方に届くよう、自分に何ができるかを改めて考える機会となりました。 学会への参加は今回が初めてでしたが、本当に学ぶことが多く、今後もこういった機会があればぜひ参加したいと思いました。最後になりましたが、学会の情報をご提供くださった野中様、事務局の皆様に、心よりお礼申し上げます。



〈中央　日ノ下さん〉

知っていますか？：肥満とがんのリスク／米国国立がん研究所（NCI）

カメラが見たがん研究：光免疫療法でがんと闘う／米国国立がん研究所（NCI）

知っていますか？：肝臓がん／米国国立がん研究所（NCI）

第56回肺癌学会学術集会に参加して

八木佐和子

11月26日から28日、パシフィコ横浜で開催された第56回肺癌学会学術集会に参加しました。信頼できる情報の入手方法、緩和ケア、臨床試験結果、実際の手術映像（会場を間違えた故の遭遇でした）、「がん制度ドック」、「CSRプロジェクト」など、多くの有意義な情報を得られた3日間でしたが、特に印象深かったのは、患者会の方々と日々患者さんと向き合っておられる先生方との集いでした。

闘病を続けつつも元気な自分の姿が他の患者さんの励みになることを希望していますと語っていたフットサルで活躍中の久光重貴選手、米国の学会で得た情報を日本の患者さんに発信しようと取り組んでいる方、2年後に横浜で開かれる世界肺がん学会での発表を目指す方々など、互いに助け合い、前向きに病気に立ち向うサバイバーの方々の姿が思い浮かびます。患者さんや家族が抱える様々な問題のうち、診療の場では対処しきないメンタル、スピリチュアル、生活などの問題に対し、経験を共有する人たちから助言を得、励まし合える患者会の存在は非常に大きいと感じました。

今回、野中さんがJAMTの活動について発表されました。会場の先生方からの反響もすばらしく、海外の最新がん医療情報を翻訳・発信するJAMTの地道な活動を多くの人々に知っていただけたことと思います。この度は学会参加という貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

6. 副理事長から

運営統括：**野中希**

梅のつぼみもほころぶ季節になりました。今年も1年間、翻訳ボランティアをいただいた翻訳者、監修者の皆様、そして協賛およびご支援いただいたみなさまのご協力を得て、がんの情報を一般公開してこられたことに深謝いたします。

昨年の『海外癌医療情報リファレンス』10周年から1年目となる今年は、JAMTにとって大変活気ある年だったように思います。がんセミナー4回に加え、各回に医療翻訳ワークショップ（会員同士）を行いました。理事もゲスト参加して毎回、賑やかになりました。事務局やスタッフが支えてくれ、参加者も増えました。

近年、学会への患者の参加が奨励されておりますが、昨年10月には日本癌治療学会、11月には日本肺癌学会の学術集会に、患者プログラムを通して初めてJAMT会員も複数名参加しました。実際に、医師の方々がどのように最善の治療を模索し、議論し、研究を重ねていらっしゃるか、少しでも理解できた貴重な機会だと思います。これからもメンバーの方々に関心を持っていただければと思います。日本癌治療学会のアドボケートのポスター発表では、幸いにしてアンケート投票二位をいただき、日本肺癌学会では登壇の機会をいただきました。私事で僭越ではありますが、会を代表しての成果と喜んでおります。

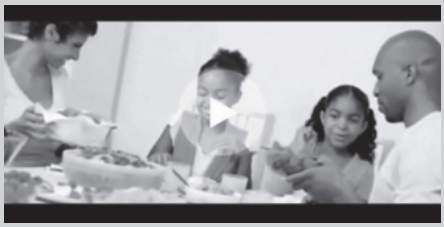
今年最も大きな成果の一つは、ジョンソン・エンド・ジョンソン（株）助成金による「～患者のための～がんの臨床試験ハンドブック」の完成です。多くの翻訳者、監修者そして外部の方や患者会（卵巣がん患者会スマイリー片木美穂さん、がん患者会シャロームの植村めぐみさん）などの助けを経て、3年越しで完成となりました。さまざまな経緯があったことを忘れません。

もう一つは、これも長くかかりましたが『海外癌医療情報リファレンス』用語集の完成です。ご要望の多かったExcelでの用語集です。翻訳者、会員の方々には今回、このニュースレターとともに冊子でお届けいたします。常に最新の情報を翻訳していることから、訳語も定まらないものもしばしばあり、統一も非常に難しいため、用語集は常に変遷する途中段階であるとご理解いただき、今後の翻訳に生かしていただければ幸いです。

また、教育部門として昨年から一般向けの医療翻訳講座も開始しておりますが、今後もボランティア翻訳に関する資材なども充実させていきたいと思います。

『海外癌医療情報リファレンス』サイトは12名のカテゴ

今年度製作したNCI翻訳ビデオ



知っていますか？：がんサバイバー／米国国立癌研究所（NCI）

知っていますか？：メラノーマ／米国国立癌研究所（NCI）

知っていますか？：白血病／米国国立癌研究所（NCI）

リースタッフや翻訳者管理、品質管理スタッフのお蔭をもちまして連日の更新が実現しています。翻訳者、監修者のみなさまに来年度もどうぞ積極的に翻訳にご参加いただけますようお待ち申し上げております。がん診療やがん医療の向上に貢献することをミッションに、会員の方々へも何かの形で利益を還元したいとの抱負を抱いています。来年度も何卒よろしくお願いいたします。

7.スタッフから

【ウェブサイトカテゴリー】

翻訳者管理担当／白井千恵子

医療従事者としての経験を生かしたいと思って一度は翻訳にも挑戦しましたが、皆様のような才能も尽力もなく諦めてしまいました。最近は新メンバーに対するご案内やメンバー活動状況を把握するお手伝いを行っています。今後もできる限りJAMTに関わり、信頼性の高い有益な情報提供のために、翻訳家の皆様を支援したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

タイトルチェック／小泉美希

タイトルチェック担当の小泉と申します。JAMTに入会してから約2年が経ちました。監修の先生方や担当者、翻訳者の皆様のやり取りを通して、日々学ばせて頂いております。微力ながら、今後もJAMTを通して医療情報を提供することに貢献していきたいと思っております。

NCIファクトシート・NCI以外の公的機関担当／日ノ下満里

お忙しい中、日々ご協力くださっている翻訳者の皆様、監修の先生方、またスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。スタッフとしてお手伝いさせて頂く中でたくさんのことを学ばせて頂くと同時に、JAMTの活動は皆様のご協力あってこそなのだと改めて感じました。私も皆様のお役に立てるよう精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

NCI臨床試験結果・NCIニュース担当／佐藤美奈子

昨年末よりNCI ニュースを担当しております佐藤美奈子と申します。皆様にはいつも多大なご協力を賜り大変感謝いたします。日々の作業は学びと気付きの連続で、自身の未熟さを痛感しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

NCI臨床試験結果・NCIニュース担当／林さやか

NCI記事を担当させていただいて１年が過ぎました。多くの方々に重要な情報をお届けするお手伝いができて大変嬉しく思っております。監修の先生方、野中様、スタッフやボランティアの皆様、いつもありがとうございます。

FDAニュース担当／谷口淳

今年度からFDAニュースを担当しております、谷口と申します。監修の先生方、スタッフやボランティアの皆様に支えられて、必要な情報を必要とされている方のもとにお届けしたいとの思いで、スタッフとして未熟ながらも、ここまで頑張ってこられたような気がいたします。これからも、微力ながら、言葉を超えて、人をつなぐ活動のお手伝いができれば幸いです。

NCI薬剤情報担当／下川智美

NCI薬剤情報のページは、各薬剤に関する情報へのリンク集です。情報が溢れるネット社会で、信頼できる正確な情報へと導いてくれる「入り口」だ と思います。その入り口を探し求めていらっしゃる方々を想いながら、皆さまにもっと有効に活用していただけるよう、サイトの更新に励んでいきたい と思います。今年もご協力のほど、よろしくお願い致します。

大学・施設ニュース担当／小石みゆき

昨年11月より大学・施設ニュース担当となりました小石みゆきと申します。翻訳ボランティアとしてこちらでお世話になってからもまだ1年経っておらず、分からないことばかりですが、少しでもお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

MDアンダーソン　Oncolog担当／河原恭子

いつもMDA記事の監修・翻訳にご協力いただきましてありがとうございます。専門家向けのOncoLogは難しい記事も多いですが、おかげさまで今年度も数多くの翻訳を掲載することができました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

キャンサーコンサルタンツ担当／山田登志子

日頃、メールのやりとり、サイト更新など、オンライン限定で活動に参加させていただいていますが、7月11日に「乳がんセミナー」に参加しまして、事務局の方々、先生方、会員の方々とお会いできました。みなさまの熱い思いを肌で感じる貴重な経験でした。ありがとうございました。

動画担当／山口夏代

動画翻訳にご協力いただいている監修の先生方、翻訳者のみなさま、いつもありがとうございます。翻訳者のみなさまには、字幕講習会に参加していただいて、たくさんの方に字幕翻訳に挑戦していただけたらと思っています。今年もより良い動画をアップしていけるように、努力いたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

メルマガ担当／重森玲子

メルマガの発行を担当しております重森と申します。メルマガは2週間に1度のペースで発行し、読者の皆様に新着記事をお届けしております。今後、監修の先生方にもメルマガに登場していただく予定です。メルマガでしか聞けない(見られない)先生方のお話もあるかも、と担当の私が一番楽しみにしています。

タイトルチェック／野中希
NCI薬剤情報担当／松長愛美
学会ニュース担当／星野恭子

【助成金プロジェクト】

がんの臨床試験ハンドブック担当／八木佐和子

JAMTに入会して１年経ちます。たった1年とはいえ、翻訳や「がんの臨床試験ハンドブック」作成の手伝いなどを通して多くを学ぶことができ、非常に充実した年でした。スタッフの皆さんにも仲良くしていただき、私としては10年いるかのように気持ちが馴染んでしまいました。本年度からはコクランのお手伝いをさせていただきます。戸惑うことも多々あるかと思いますが一生懸命取り組みますので、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

がんの臨床試験ハンドブック電子書籍化担当／筧貴行

2015年に入会した筧と申します。よろしくお願いします。日頃は出版社で翻訳書の編集をしています。電子書籍は低コスト・低価格で提供できるためJAMTの新しいツールとして今後の可能性は大きいように感じます。特に文字ものは制作も簡単(？)ですので、短い記事はウェブ、イラストの多いものは紙、長文で読ませるものは電子と目的に合わせて使い分けができるかもしれません。

事務局スタッフ
運営統括／野中希
事務局／水野恵、川見佐知
会　計／水野恵
収益部門翻訳コーディネーター
／鳥居塚千恵、今泉眞希子

医療翻訳講座

2014年より開講している医療翻訳講座ですが、お陰さまで2015年も17名の受講生をお迎えすることができました。(通学型8名、通信型9名)2016年に入り1月期・基礎入門講座（Aコース 全9回３か月）を無事に開講。

2016年はいよいよAコースに引き続き、基礎実践講座（Bコース 全12回6か月）が開設されます。ブログ、メルマガなどで４月期の通学・通信受講生を募集中です。詳しくはお問い合わせください。

事務局からのコーナーに講座使用テキストの特別販売についての記載もご覧ください。

講師／今泉眞希子

昨年に続き、JAMT医療翻訳講座を担当しております。夏期集中講座では、熱心な生徒さんに囲まれて、1回3時間の授業も楽しく乗り切ることができました。今年も多くの方とお会いできることを楽しみにしています。運営・監修に携わっていただいた皆様、どうもありがとうございました。

講師／石崎智子

教育事業部でお手伝いしています。

If you are interested in learning medical translation on cancer, JAMT is the best opportunity for you! Join us and enjoy studying together!

8.事務局からのお知らせ

（事務局　Email:office@jamt-cancer.org）

●2015年度（1月～12月）会計報告は、JAMTオフィシャルサイトに3月中に掲載予定です。

●翻訳支援ソフトの会員特典について

プロの翻訳者に好評の翻訳支援ソフト「トラツール」（発売ロゼッタ）をJAMT会員の方は4割引で購入いただけます。ご希望の方は事務局までお知らせください。

●各ワークショップ・セミナー資料、音声、冊子販売について

・医療翻訳ワークショップ（全3回）

＜翻訳者が知っておくべき＞「がんの分子生物学、診断、薬物治療をはじめとした各種治療と臨床試験の知識」～肺がんを中心とした薬物学的アプローチに関する最新知見～田中 文啓先生の講義音声と資料を会員の方のみご購入いただけます。
ご希望の方は事務局までお知らせください。
第１回、第２回、第３回　各 2,000円　３回分セット4,800円　（送料込）

・米国国立癌研究所(NCI)ガイドブック

「再発したとき」　300円
「がん治療後の生活」　400円
以上の冊子販売をしています。
ご希望の方は事務局までお知らせください。

・医療翻訳講座テキスト（改訂版）会員のみ特別販売

定価5,000円→会員特別価格2,160円（税込、送料別）

販売代金、手数料のお振込先はこちらです。
（会費振込先とは別口座になります）
【振込先】三菱東京UFJ銀行
【支店】仙川支店
【口座番号】普通　0072693
【名義】一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ
シャ）ニホンガンイリョウホンヤクアソシエイツ

2016年度年会費お振込みのお願い

次年度は2016年4月1日から2017年3月31日となります。会費につきましては2016年3月25日までにお振込みをお願いいたします。（会員資格についてはJAMT ホームページ＜会員登録と寄付＞をご確認ください）

【振込先】ゆうちょ銀行
記号　10030　番号　78505391
一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ

他行からのお振込みはこちらをご覧いただきお手続きをお願いします。
http://www.jp-bank.japanpost.jp/kojin/tukau/sokin/koza/kj_tk_sk_kz_furikomi_stp.html

＊ 退会をご希望の場合は、その旨必ずメールで事務局までご連絡をお願いします。引き続きみなさまのお力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

9.組織概要

名称	一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ
所在地	〒160-0022　東京都新宿区新宿2 - 15 - 22 S2ビル8F
連絡先	office@jamt-cancer.org TEL 03-3356-5710　FAX 03-5367-6032
設立年度	2009年4月1日　一般社団法人　（2004年10月～任意団体）
ボランティア翻訳所属メンバー（2016年2月現在）	ボランティア翻訳者 126 名 監修者：48 名

- JAMT オフィシャルサイト　http://jamt-cancer.org/
- 海外癌医療情報リファレンス　http://www.cancerit.jp/
- Twitter アカウント　JAMT：@jamt_cancer　癌リファ：@cancer_ref
- Facebook ページ　JAMT：　jamtforcancer　癌リファ：cancerreference

理事
理事長　久保田 馨
医師／日本医科大学付属病院 がん診療センター／呼吸器内科
副理事長　野中 希
医療翻訳者、医学ライター
理事　今村　知世
薬学博士／慶應義塾大学医学部　臨床薬剤学教室　講師
理事　後藤 悌
医師／国立がん研究センター　呼吸器内科
理事　辻村 信一
メディカルライター（獣医学 / 農学）
理事　林 正樹
医師／社会医療法人敬愛会中頭病院　血液腫瘍内科

監事
監事　久賀田 郁子　著述業
監事　関　有美

10.協賛企業

JAMTの運営支援をいただいた企業様に厚く御礼申し上げます。

企業協賛（順不同）

- 小野薬品工業株式会社
- アストラゼネカ株式会社
- 日本化薬株式会社
- 大鵬薬品工業株式会社
- 中外製薬株式会社
- 日本イーライリリー株式会社
- MSD 株式会社
- 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

寄付（助成金）

- ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

発行：一般社団法人　日本癌医療翻訳アソシエイツ　Japan Association of Medical Transtlation for Caner (JAMT)
東京都新宿区新宿２－１５－２２　S2ビル８Ｆ　TEL:03-3356-5710 FAX:03-5367-6032
Email:office@jamt-cancer.org　公式HP:http://jamt-cancer.org/
2016年3月／第7号